

1部：生かす者(ルカ 13:1-9)

多くの人は、傷つけたり傷つけられたりすることで人間関係に悩んでいるが、信者の場合は誰か何かのせいにする前に、信者自分の中にまだ解けていない部分(誤解)があることに気づくべきであるが、それは?

1. 罪に対する誤解

1) 罪を犯して罪人になる

- ①律法を犯す
- ②罪の大小
- ③罪の多少

2) 犯した罪への報い

- ①災難と苦しみ
- ②罪の重さ測り

3) 愚かな努力

- ①罪を犯すまい
- ②律法(道徳)を守ろう
- ③無駄な安堵と不安
- ④キリスト拒否

2. 罪に対する正しい理解

1) 罪人だから罪を

- ①律法を守れない
- ②罪の症状
- ③すべてが罪

2) すべての人は罪人

- ①ローマ 3:10
- ②ローマ 3:23
- ③エペソ 2:1
- ④ヨハネ 8:44

3) 神様の恵みのみ

- ①神様の愛(ローマ 5:17)
- ②神様の贖い(マルコ 10:45)
- ③神様の赦し(ヘブル 10:17-18)
- ④キリスト(ヨハネ 19:30)
- ⑤信仰(ローマ 1:17)

信者自分を生かせるように、大小のすべての過ちを根本を見る材料にして、キリストを信じる信仰だけを条件に自分の存在を改め、いかなる罪責感からも自由になり(ローマ 7:24-8:2)自分の中に神の国が建つように大胆に祈ろう!

問題ある人(現場)を生かせるように、批判も裁きも、正当化もせずに、私と同じくキリストに出会わせる為に許された問題と見て、神の国のことがなされるよう祈ろう!

2部：真の希望(創世記 12:1-3)

アダムの混乱、カインの勘違い、ノアの時代の肉の基準、バベル塔の幻想というサタンのやぐらが碎かれると、何が真の希望でどこに希望があるのかが見える。

1. 絶対不可能から

1) アブラハムが置かれた状況 (偶像崇拜-AII)

2) エペソ 2:1-3

- ①靈の死
- ②世の流れ(空中の権威)
- ③生まれながら

3) 根本的絶望

2. 神様の無条件のお召し(お選び)

1) 世界の基が据えられる前から (エペソ 1:4)

2) 愛をもって(エペソ 1:4)

3) 恵みの故に(エペソ 2:8)

4) キリストへと-カナンへ (ローマ 5:8)

3. 召された(お選び)理由

- 1) 完全解放(ローマ 8:2)
- 2) 完全祝福(エペソ 1:3)
- 3) 祝福の根源(2-3)

神様に選ばれた者、祝福された者、理由

ある者という確信を持ち、それを妨げるものはすべてサタンの策略と見なそう!

その確信を元に、ローマ 5:1-2 を握って、自分の中に御座のやぐらが建ち、神の国が建つことを大胆に祈ろう! そう出来る十分な資格あり、光の道しるべを建てるための御座の旅程を歩むべき尊い理由があるから!

1部-ルカ 13:1-9 生かす者

なるほど/

「罪を犯して罪人になる」という誤解から、罪の重さを計ったり、罪を犯すまいと努力して安堵と不安を行き来してキリストを拒否するが、「罪を犯すしかない罪人」と理解すると、すべての人が罪人で、神様の恵みによるキリストの贖いの他に希望がないことを認めることになる。

ならば/

罪を正しく理解して、キリストを信じる信仰だけを条件に自分の存在を改めて、すべての罪責感から自由になり、人(現場)の問題(罪)をキリストと出会わせる為に許された問題と見て、神の国のことがなされ生かせることを祈ろう!

2部-創世記 12:1-3 真の希望

なるほど/

アダムの混乱、カインの勘違い、ノアの時代の肉の基準、バベル塔の幻というサタンのやぐらが碎かれると、絶対不可能から神様の無条件の愛による無条件のお召し(お選び)だけに真の希望があることを悟り、お召しの理由(祝福)に感動する。

ならば/

自分は神様に選ばれた幸いな者という搖るぎない確信を持ち、光の道しるべを建てる尊い理由を告白し、自分の中に御座のやぐらが建つことを大胆に祈ろう!(ローマ 5:1-2)